

教材・支援機器活用実践事例【ICT】

得意な力を生かして発表するための ICT 活用 「AT を利用した立会演説会での発表」

| | | |
|-------------------------------|---------------------------|--|
| 子どもについて | 所属・学年 | 特別支援学校・中学部 3 年 |
| | 障がい名等 | 知的障がい |
| | 子どもの実態 (学習上又は生活上の困難さ等) | ・読字・書字に困難さがあり、各々の活動でかなりの時間を要する。一文字ずつの拾い読みだが、聞いたことを繰り返して話すことには問題がない。 |
| 授業について (教材・教具を使用した授業や指導場面) | 教科名等 | 特別活動 |
| | 単元(題材)名 | 単元名「生徒会選挙～立会演説会～」 |
| | 単元(題材)の概要 | ・生徒会役員選挙に立候補した生徒が、生徒の前で立会演説をする活動に際し、ICTをAT(アシスティブ・テクノロジー)として利用して練習し、当日に臨んだ。 |
| 教材・教具支援機器について | 教材・教具 支援機器 | タブレット端末、骨伝導イヤフォン  |
| | ねらい・工夫点 | 〈ねらい〉 ○立会演説会の際に、教師からの直接の支援を受けずに、自分のペースとタイミングで演説を行うことができる。 〈工夫点〉 ・「読むこと」と「聞くこと」を組み合わせる「話すこと」ができるように、演説文を読み上げるアプリを使用した。 ・骨伝導イヤフォンを使用するとともに、タップして読み上げる言葉の量を事前練習で調整した。 |
| | 材料・作成方法等 | タブレット端末、アプリ (DropTap)、骨伝導イヤフォン |
| 子どもの変容や評価 | | ・読み上げを一文から一語ずつに区切って入力することで、言葉を聞いて明瞭な話し方で演説ができた。 ・読み上げのために分ち書きをする指導を通して、自分から語や文節で分けて書くなど、分かりやすく工夫しようとする姿が見られるようになった。 |